

# Tibetan-Sanskrit 構文対照 電子辞書構築プロジェクト eDic

鈴木隆泰<sup>†</sup>

## 0. eDic

1. インド学仏教学 少量の原典と大量の翻訳資料
  - 1.1. 背景
    - 1.1.1. インド語資料 (原典)
    - 1.1.2. 漢訳資料 (翻訳)
    - 1.1.3. チベット語訳資料 (翻訳)
  - 1.2. 電子データの普及: 入力されたデータをどう使うのか
2. eDic を用いた原典の再構成
  - 2.1. 初期構想から次のステップへ
  - 2.2. 散逸した原典の論理的再構成手順
3. eDic が示す翻訳資料の持つ可能性
  - 3.1. 翻訳資料そのものとしての価値
  - 3.2. 価値 の再生
4. 翻訳資料と原典との新しい関係

## 0. eDic

Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築プロジェクト  
<http://suzuki.ypu.jp/edic/>

1. インド学仏教学 少量の原典と大量の翻訳資料
  - 1.1. 背景  
ヨーロッパ文献学, 聖書学.  
“原典が大事”  
大乘仏教の抱える事情.
  - 1.1.1. インド語資料 (原典)  
仏教の誕生と釈尊 Śākyamuni の活躍 紀元前 5-4 世紀頃  
仏典の三蔵 tripiṭaka (三つのバスケット)  
経 (教説), 律 (生活規定), 論 (研究書) の三蔵.

---

<sup>†</sup> 山口県立大学国際文化学部 . [suzuki@ypu.jp](mailto:suzuki@ypu.jp) <http://suzuki.ypu.jp/>

プラークリットまでを含んだ広義のサンスクリット資料 第一次資料  
量：地理的・歴史的要因による“原典”の散逸。  
質：紀元 10 世紀以降の新しい成立のものがほとんど。

### 1.1.2. 漢訳資料（翻訳）

紀元 2 世紀中葉より元代まで続いた仏典の翻訳。

（古訳 鳩摩羅什 5c. 旧訳 玄奘 7c. 新訳）

『漢訳大蔵経 *Chinese Tripitaka*』約 2,200 部の翻訳仏典。

『大正新脩大蔵経』（1924-34 年）

- ・ “必ずしも原典に忠実ではない” どこまで本当か？
- ・ 新しい訳ができて古い訳が残されてきた。

### 1.1.3. チベット語訳資料（翻訳）

インドより仏教を導入：前期伝播期（7-9 世紀）

翻訳のためチベット語が整理された。

『翻訳名義大集 *Mahāvvyutpatti*』をはじめとする工具の充実。

『デンカルマ目録 *lDan dkar ma dkar chag*』（9 世紀）

『チベット大蔵経 *Tibetan Tripitaka*』約 4,500 部の翻訳仏典。

仏説部（カンギュル *bKa' 'gyur, Kanjur*）と論疏部（テンギュル *bsTan 'gyur, Tanjur*）

14 世紀の旧ナルタン版にはじまるカンギュルの系譜。20 以上。

- ・ 歴史的経緯，工具の充実 “インド語原典” に最も近い。
- ・ 改訂の証拠が少ない。

「原典研究」 「点」の研究になりがち

## 1.2. 電子データの普及：入力されたデータをどう使うのか 様々な“テキストデータベース”

### 2. eDic を用いた原典の再構成

#### 2.1. 初期構想から次のステップへ

初期構想：用例を伴った「蔵梵辞典 *Tibetan-Sanskrit Dictionary*」の作成。

[Tibetan] de nas bcom ldan 'das kyis byañ chub sems dpa' sman gyi rgyal po la sogs pa byañ  
chub sems dpa' brgyad khri po de dag la bka' stsal pa/

[Sanskrit] atha khalu bhagavān bhaiṣajyarājam bodhisattvaṃ mahāsattvaṃ ārabhya tāny aśītiṃ  
bodhisattvasahasrāṇy āmantrayate sma/

次のステップ：翻訳資料と原典との距離を縮めたい。× 還梵。

単語情報の盛り込み，単語の対応付け。

## 2.2. 散逸した原典の論理的再構成手順

- (a) nam źig ru sbaḷ spu mams las// gos su legs par btags gyur te// dgun cha dag tu gyon gyur pa// de tshe riñ bsrel yod par 'gyur//
- (b) nam źig = rus sbaḷ = spu - mams - las// gos - su = legs par btags = gyur - te// dgun - gyi = grañ ba = sel byed pa// de tshe = riñ bsrel = yod par 'gyur// (*Suv<sub>T</sub>*, 11:14.12-15)
- (c) yadā kacchapa-lomānām prāvāraḥ sukṛto bhavet/ hemante śīta-haraṇas tadā dhātur bhaviṣyati// (*Suv<sub>S</sub>*, 11:15.5-6)
- (d) yadā kacchapa-lomānām pavāro tividho siyā/ hemantikaṃ pāpuraṇam atha nūna tadā siyā// (*Jātaka* 425, 78:477.16-17)
- (e) yadā kacchalomānām prāvāraḥ sukṛto bhavet/ hemantakaṃ prāvaraṇam tadā dhātur bhaviṣyati//  
データの蓄積が不可欠 .

## 3. eDic が示す翻訳資料の持つ可能性

### 3.1. 翻訳資料そのものとしての価値

- (a) 翻訳資料は原典に従属 .
- (b) 翻訳資料と原典とが乖離 .  
どちらも行き過ぎ . どちらも極端 .

### 3.2. 価値 の再生

翻訳資料は “ 二次的資料 ” にとどまり続けるのか .

## 4. 翻訳資料と原典との新しい関係

これまで : 「 翻訳資料 より 原典 へ 」  
二次的                      一次資料

eDic からの提案 : 「 翻訳資料 も 原典 も 」

“ 一次資料 ” の劇的増加に伴う , インド仏教学研究の精度・確度の向上 .  
“ 原典 , 一次資料 ” の再評価 , 再構築 .

新しい視点 + 新しいツール = 新しい関係                      研究の質的転換

テキストの再構築が思想史の再構築をもたらす

